

【徳島県阿南市】 校務DX計画

学校における校務DXの推進については、令和3年4月から徳島県内すべての公立小中学校で、徳島県公立小中学校「学校業務支援システム」を運用している。

このシステムは、教職員の行う調査・報告等の事務処理や情報共有等を円滑に行うためのグループウェアと、児童生徒に関する基本情報や学校行事等の管理を行う統合型校務支援システムから構成されている。グループウェアには、メール機能の他に教職員の出勤記録、掲示板、回覧板等の機能があり、統合型校務支援システムには、児童生徒の基本情報の他に通知表や指導要録、時間割の管理、健康診断等の保健、学校行事や教職員の出張や休暇等の学校予定管理等の機能がある。

グループウェアでは、公立小中学校と市町村教育委員会、県教委育委員会の間で、照会や通知、回答等の連絡を効率よく簡便で安全に行うための県市町村連絡機能がある。この機能を活用して、各学校で県教育委員会や市町村教育委員会からの文書を一元管理できるほか、前年度の回答内容についてデータを検索することができ、グループウェア内で操作が完結するため、セキュリティの向上につなげている。また、掲示板や回覧板機能を活用することにより、通知・通達文書や資料等を学校内で共有することができ、職員会等での情報共有の質の向上とペーパーレス化、会議時間の縮小を図ることで、教職員の働き方改革につなげている。

統合型校務支援システムでは、指導要録や通知表、出席簿のほか、学校日誌や保健日誌等の電子化を推進し、業務の簡便化、ペーパーレス化を図っている。また、クラウド上での電子的手続きにより、セキュリティの向上につなげている。さらには、県内での児童生徒の転出入や進学等による指導要録及び児童生徒健康診断票の送付について、学籍データをシステム内で送受信することが可能となっており、これまでの紙媒体でのやりとりに比べて格段に業務が簡便化し、教職員の働き方改革につなげている。

令和7年度末に、学校業務支援システムの運用保守の期間が終了することをふまえ、令和8年度以降についても、更なる業務の簡便化、教職員の働き方改革に向けて、校務DXを推進するために、システムの在り方について検討する。